



絵図からみる「一の鳥居」

大宮神社の参道

かねてより思いが実る

大宮神社については、旭区地域史・大宮編で既に編纂されており、ここではその参道について、とりわけ「一の鳥居」に関する資料をまとめた。

大宮神社は、もと大宮八幡宮といい、応神天皇を祀ってある。
『摂津志』に南島神社と見えるのは、旧古市村大字南島の地名をとったものである。

『難波大阪』

南島村は淀川左岸にある南北に細長い村で、西は江野村、南は京街道を隔てて関目村に接する。北部の集落内を東西に野崎街道が通り、京街道から分岐して淀川堤防に至る長さ12町・幅六尺の大宮道(六尺道)が野崎街道と交差する。

『日本歴史地名大系』

この大宮道が、まさしく大宮神社の参道である。

むかし、京街道に面する旧大宮一丁目(現在高殿四丁目)に「一の鳥居」があり、ここより神社の馬場先まで道の両側に松並木があった。

長さ12町は約1300m、現在の地図で確認できる。

今回、大宮神社のはからいで昔の絵図をお見せいただいた。

絵図には、京街道の七曲がり描かれ、さがしもとめた「一の鳥居」、大宮道と松並木、一里塚。

周辺には、内代村、江野村、参道の先に「南島村」、森小路村が見える。



■現在の「一の鳥居」付近
(平成20年10月22日の「まちあるき」にて)



■大正13年測の地図(資料:大阪市史編纂所)



■境内古圖(提供:大宮神社)

境内は樹木がうっそうと茂り、四周に清らかな流れがひかれています。
橋を渡り神域にはいる。右手に手水舎、楼門をくぐると、二の鳥居、拜殿へと進む。



宝物、豊公当時の境内圖書より「一の鳥居」をみる

ここに、大宮神社の本殿がある。本殿の神門東には影向梅(えこうばい)、神門西には亀甲石(きっこうせき)が、そして本殿を取り囲むように、若宮、高良社、鬼門守護社、北斗社、三元殿、七社相殿、御輿殿が見える。絵図の左下に、神井、絵馬掛け所、御供所。拜殿の右側に、神楽殿、神官□所など、丁寧に描かれている。